

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)エス・エッチ・メデカル		
事業所名	グループホームかえで(2階)		
所在地	岡山市南区松浜町7-34		
自己評価作成日	平成27年3月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104998-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はお二人の方の看取りをさせていただきました。入居されて約2年という短い期間でしたが、ご本人様とはもとより、その御家族様ともしっかりと信頼関係を築くことが出来ました。最期を迎えられるときまで何度も話し合いを行い、御家族様からは「穏やかに本人らしい最期を迎えることが出来てよかった」というお言葉をいただきました。そして、新たにお迎えした利用者様は4名おられ、施設の理念である「一人ひとりの入居者様の能力を活かした温かいケア」をもとに、個別のケアを行うためにスタッフ全員で意見を出し合い、入居者様とその御家族様の思いに添ったサービスの提供を行っています。御家族様から、「穏やかな顔になって嬉しい」「会いに来るのが楽しみになりました」と言っていたことがスタッフにとっても励みになっています。スタッフ同士の関係もよく、施設全体の雰囲気作りにもつながっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の訪問で気付いた優れた点は数多く挙げられるがその一つは「いきいき倶楽部」の活動。H15年春のホーム開設以来この地域の中でより開かれた施設を目指し、認知症理解で地域貢献を願い辿り着いたこの活動は「月1回、地域の子供達に遊びに来てもらい、お年寄りと交流してもらい。それを通してその家族との交流も広げていく」といった計画で、双方に楽しさや理解を深めていってもらっている。その二は、「かえで会」の創設である。このホームではかなり早い段階からターミナルケアにチャレンジしてきた。この13年間に最期までここで看取った人は11人と聞く。本人も家族も、そして看取った職員も心満たされた送りが出来て忘れ難い人達となっている。このような想いを大切にしようと、その家族・当時の職員も交えた「お茶会」を不定期に実施している。家族の喜びは、いかばかりかと、家族の立場からも共感している。最後に、毎年実施している「改善コンクール」が確実に日々のケアや業務の改善に貢献してきた為もあって、すばらしいホームに成長してきたと思う事である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の能力を生かした温かいケア」の理念を見えるところに掲示することで、全職員で共有している。今年度の目標として地域交流を挙げ「いきいき倶楽部」を発展させて実践している。	今年度の目標として、地域の子供達が訪問しやすい週末に月1回の頻度で「いきいき倶楽部」を開いて利用者との交流を図ることに取り組んでいる。そして、回を重ねる毎に様々な工夫や試行錯誤を繰り返しながら着実に成果をあげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週3回の買い物では地域のスーパーへ行き積極的にお店の方と挨拶を交わしたりして馴染みの関係を築いている。また行事等を通じて、地域の方とも日常的に交流を図っている。	地域交流も年々参加者が増え、毎年夏に開催していたホームの夏祭りには地域の人たちを含め百数十名の参加があり、今年は暑い時期を避けて10月に開催した。今後は、地域での介護技術についてのミニ講習会も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを通じて、利用者が生活している様子を見ていただいたり、消防避難訓練に参加していただいたりして、認知症の人の理解や支援の方法について地域の方に伝えられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状や取り組みについて報告や話し合いを行っている。いただいた意見をサービスの向上へつなげている。	年6回のうち数回は行事と併せて開催し、1回の参加人数が数十人に及ぶ事もある。行政・地域の人・消防署員・家族等の参加があり、毎回有意義な意見交換をしているが、地域の人が「いきいき倶楽部」に他の人を紹介してくれることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議に参加していただいたときに、施設の現状やケアサービスの取り組みを伝えているが密な連絡とは言えない。	運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、日頃からホームの現状と活動をよく理解してもらっている。ホームの空き情報の報告や市から利用者の紹介もある。何かあれば担当者に相談し、助言や指導をもらい連携できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心として、身体拘束廃止の勉強会を行っている。日々身体拘束に当たるかどうかを職員間で確認し、身体的・心理的拘束をしないケアに取り組んでいる。例えば、ホールの出入り口にセンサーを設置して、利用者の自由な行動を制限しないように解錠状態に努めている。	玄関の施錠はなくオープンにしている。安全の為に北側のドアは施錠しているが、ここから外がよく見え視覚的には開放感がある。居室の窓に事故防止用にファスナーロックをつけるのが拘束に当たるかどうか職員間で話しあっている。外に出たい人には一緒に見守りながら付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心として、虐待防止の勉強会を行っている。日々職員間で注意を払い、指摘し合える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する研修に参加し、得た知識を持ち帰って職員間で共有し、必要性がある場合は活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、本人や家族の不安や疑問点について十分に説明を行い、理解・納得していただいた上で同意のサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上のためにアンケートを実施したり、年に2度家族会を行って家族が意見・要望を出せる機会を設けている。家族の面会時にも意見をいただけるように信頼関係の構築にも努めている。	今回の改善コンクールのテーマは「元家族との縁をつなぐ」であり、その取り組みとして、多数の元家族・元職員・現家族等に声をかけ「かえで会」と称してお茶会を開き懇親と交流を図った。毎年、家族アンケートも実施しており、結果・集計を家族に送り、意見・要望を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の話し合いには、参加できない職員も事前に用紙に記入してもらうことで全員の意見を聞けるようにしている。	職員会議では事前に各自が「話し合い意見提案書」を提出し、意見交換をしたり、半期ごとに目標管理シートを作成・検証・自己評価し、年2回個人面談をして意見や提案を聞く機会を設けている。産休明けの職場復帰等、若い職員が働きやすい環境にもなっている。	ホームの運営に関する職員からの提案を吸い上げるシステムを、このホーム程よく工夫し実行している所を私は知らない。一人ひとりの職員が「自分がこのホームを支えている」といった認識に至るよう、さらにこの仕組みを発展・活用して欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートで個々の目標を設定し、半期ごとにその実績を評価している。また個人面談を実施して各自の向上心を支援するために、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内のファイルを設置して、一人ひとりが自分に合った研修を選べるようにし、参加への支援を行っている。研修内容に応じて必要な場合は参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人内の他部署の管理者が集まって、行事の際のヘルプや運営状況、勉強会の合同開催などの相談をするなどして、サービスの質を向上させるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談やご家族からの情報をもとに、本人が困っていること、不安なこと、要望などを引き出し、安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族に困っていること、不安なことを伺い、要望聞き取り書をお渡ししてサービスに反映させ、その後の信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報を基に、アセスメントを行い、ご本人とご家族が必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見極め、日常生活の中で家事を中心に協力していただき、職員と共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週、家族が入浴介助をしてくださったり、食事に外出されたりと、利用者と家族がよい関係を継続できるように共に支えていく立場で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の近くに自宅がある方は、一緒に自宅へ行ってご近所の方と話をしたり、馴染みの店などへお連れしたりしている。またご家族にも協力してもらい、入居前の友人関係が継続出来るように支援している。	利用者もホーム近辺の人が増え、今日も家族のお迎えがあり、これから実家に帰り食事にも行くという場面に出合った。息子が毎週母の好物を持って面会に来るのを楽しみにしている人もいる。仲良しの人の入院先に職員と一緒にお見舞いに行く事もあり、馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの思いや相性なども考慮して関わり、円滑にコミュニケーションが図れ、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、「かえで会」というお茶会を開催して家族の近況を伺ったり、施設へ訪問しやすいように行事に招待するなどして、気軽に相談に応じることが出来るような環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人から希望を聞き、電話や手紙、買い物などの支援をしている。また、利用者・家族との関わりの中から希望や思いをくみとることが出来るように努めている。	生活史ノートで思いや意向を把握しているが、自分をかまってくれたいという利用者も多く、一人ひとりとコミュニケーションをしっかりとるようにし、言語で表出できない人には残存している言葉から引き出してあげるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネなどから生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等についての情報収集をして、フェイスシートを活用して全職員で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	デイリーモニタリングシートを活用しながら、定期的にカンファレンスを行い、心身状態や残存機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からはどのように暮らしたいか、家族はどのような生活を望んでいるのか、ケアについて相談や、協力の有無などを確認し、職員間でも話し合いを行って、現状に即した介護計画を作成している。	職員間で本人・家族の意向をもとに話し合っケアプランを作成し、プランに対して日々のケアを評価し、1ヶ月単位でモニタリングしているが、現在、様式・記入方法について「デイリーモニタリングシート」の改善を検討中である。ケア記録は利用者の身体面・心理面が分かりやすい形で記入され職員間で共有しやすい。	日々の記録もこのホーム独自の工夫がよく見られ、職員間でしっかり共有出来ている。ただし、職員の異動が少ないといった状況もあるからか、「日々の気付きを記録」の業務がモニタリングやケアプランに十分活かされていないのではないかと思う。次のステップアップに向けて工夫して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や新たなケアの実践・結果など特記事項として個別記録に記入したり、ご本人の発言や職員の気づきを色分けして記録することを継続しており、これらを共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族だけでは外出出来ない方へ、送迎の支援をしたりするなどして、現状において何が出来るのかということを考えて支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーを利用して顔なじみの関係を築いたり、地域の理髪店の利用を支援するなど、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入居の際に希望した医療機関以外にも、それぞれの専門医やかかりつけ医を受診できるように支援を行っている。	両ユニットに隔週交代で往診があり、2週間に1回は口腔ケアの為の訪問や必要に応じて訪問歯科を利用している人もいる。今日はちょうど訪問療養マッサージの訪問日であった。母体の医療機関との連携・訪問看護との連携もよく取れているので安心して生活できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の様子や小さな変化も訪問看護師へ報告・相談して、情報の共有をし指示ももらっている。必要であれば訪問看護師から主治医へ報告し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、地域連携室の職員と密に連絡を取り、早期に退院できるように努めている。また、日頃から病院関係者との関係を大切に、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居したときに終末期の意向を伺っているが、重度化した場合に早い段階で、事業所で出来ることについて十分説明し、方針をチームで共有して支援に取り組んでいる。	開設以来多くの看取りを経験してきたが、今年度も2名の看取りを行った。最期まで自分で歩き、食べ、会いたい人全員に会えた人、子孫に囲まれて家族がとても協力的だった人、二人とも安らかな最期であり、職員もいい勉強になった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、定期的に様々な想定で緊急デモストを実施している。なるべく新人職員に積極的に参加、実践してもらうよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練をおこなっている。昼・夜の想定をし、地域の方にも案内をして訓練に参加してもらっている。また、地震や水害等の災害時の避難について、市から指導をもらって避難方法を周知させている。	消防署の立ち会いの下、夜間帯想定での避難訓練をし、火災通報装置の使い方や消火器の使い方の指導を受けた。「この避難訓練は優秀です」という評価をいただき、「2階の人は出来れば外階段を使用して欲しい」という助言もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症について正しく理解し、一人ひとりの人格を尊重した上で、利用者が何を訴えたいのかを聴くようにしている。排泄の声掛けなどを大きな声でしないように心がけて対応している。	一人ひとりにあった声かけと丁寧語を使った話し方を基本とし、利用者それぞれに個性があり、少々の癖があってもそれを温存し、否定しないでその人らしさを大切にしている。各居室にトイレが設置してあるので、プライバシー確保や羞恥心への配慮は出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出し、実現できるよう働きかけている。また、わかりやすく選択肢を提示して、自己決定を促すような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースを優先せず、散歩や買い物などの外出を希望されたときには、可能な限り対応し、横になって休みたい方には、休んでいただくなど、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みの服を選んでいただいたり、家族が用意した化粧水を付けるなど、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、職員と一緒に調理や味付けをしていただいている。個別にお好きな漬け物やふりかけを用意したりして、食事を楽しんでいただいている。	目の前に置かれたホットプレートからお好み焼きのいい匂いが漂ってくる。焼け加減を助言してくれる利用者もいる。食事のおかわりが出来るのも嬉しい。正月には餅つきをした後、小さく切って雑煮にして、自分達で作ったお餅を食べる喜びを感じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力を把握し、必要に応じて食べる量や食事の形態、提供のタイミングなどを考慮して提供している。ご家族からの協力も得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に全員口腔ケアを行っている。一人ひとりの能力に応じて口腔ケアの援助や義歯の手入れを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、失敗を減らせるように支援を行っている。また、紙パンツから布パンツへの支援も行ったたり、オシメ使用の検討も随時行っている。	居室のトイレを自分で使える人は半数くらいで、その他の人は常時見守りが必要であり排泄リズムを見ながら職員が適宜、声かけ誘導をしている。入所時に紙パンツだった人が布パンツ+小さいパットに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、主治医と相談しながら下剤も使用するが、個々にあわせて家族の協力を得て飲食物の工夫をしたり、日中の活動をしっかりするなどして、なるべく下剤に頼らないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングを考慮して、入浴を楽しみにしてもらえよう支援している。定期的な入浴が困難な方がいるので、家族に協力してもらったり、曜日や時間を決めずにいつでも入浴していただけるように支援している。	極度の入浴拒否があり、家族の協力で週1回やっと入浴出来ていた人が、今日は職員の介助で入ってくれ、手法が効いたと喜ぶ職員の嬉しそうな姿から日頃の努力を感じた。重度化した人はシャワー浴で対応しているが、殆どの人は問題なく入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、日中でも居室で休んでいただいたりしている。部屋の明るさや温度調節をするなどして環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて、安全に確実に薬の内服が出来るように支援している。薬の内容が変更になったときには職員全員が把握して、その後の状態の変化に留意するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの友人と交流する機会を設けたり、入居以前から楽しまれていたお酒を飲む機会を作るなどして支援している。また、お菓子を買っていくことを楽しみにされている方の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出について、できる限り本人の希望に添えるように支援している。また、家族と一緒に外出出来るように支援を行っている。	新規入所の人が増え以前より元気な人が多くなった。利用者の希望に添った買い物支援や家族にも協力してもらい絆を深めてもらっている。花見・ドライブ・家族と一緒に日帰り旅行等を楽しんだり、外気浴・日光浴や天気の良い日の散歩は日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことで楽しみとなり、生活が充実することを理解しており、本人がお金を所持したり、お預かりして必要時に使っていただけるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があったときには、家族に電話を取り次いで話をしていただけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者と一緒に作った季節の壁面飾りをしたり、室温や日光の遮断など光の調節をするなどして、居心地よい空間づくりの工夫をしている。	リビングは楽しく過ごせる共有空間であるが、職員の目の届きにくいスペースもあるので、コーナーに小さなミラーを取り付け利用者同士のトラブル対策をしている。見事な利用者の書初めや季節の行事を感じさせる折り紙の作品等が壁に彩りを添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはいくつかのくつろぎスペースがあり、それぞれの利用者が好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、本人の使い慣れたものや写真など好みの物を置き、家のように居心地よく過ごせるよう支援している。	居室の入り口に、美味しそうにビールを飲んでいる利用者の大きな顔写真が貼ってあり、ここでの生活の楽しさを感じさせる。白寿の祝いをした人の居室は家族の愛情をいっぱい受けて、家族から大切にされているのが伝わってくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では、人感センサーの有効な活用をすることで、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		